

## 留学報告書

～初海外、極北の地にて留学せり。～

アラスカ大学フェアバンクス校  
外国語学部生（長期）

私はアラスカ大学フェアバンクス校へ、7ヶ月間留学に行きました。私にとっては初めての海外体験であり、学べることは沢山あると確信していました。実際、この留学経験を経て、成長をしたと実感しています。そんな私の経験を、時系列順にまとめていこうと思います。

実のところ、出発の時から問題がありました。名古屋発の飛行機の遅延により、乗り継ぎの空港であるシアトル国際空港にて、受付で航空券の変更をする必要がありました。実際にアメリカで英語を使うのは初めてだったので緊張しましたが、難なくこれは突破できました。が、しかし、アラスカのフェアバンクスに到着したのは午後11時、当然大学からのバスもなく、タクシーを使うほかありませんでした。運良く、空港前で止まっていたものに乗せてもらい、寮に到着、といった形でした。初日の間にとってもたくさんの体験をしたように感じました。

以降の留学生活序盤は問題なく過ごせたと思います。授業はESLのみで、特別授業についていけないなど、困ったことはありませんでした。先生方も優しく、というのは大きかったと思います。また、その授業を中心に同じ大学に留学に来ていた日本人留学生とも仲良くできました。

まずは授業について書こうと思います。スピーキング、ライティング、リーディング、そして文法の4つについての授業がありました。週に各二回あり、一コマ90分程度のものでした。スピーキングの授業ではディスカッションなどの自分の英語の表現力を高めることをしました。また、ボキャブラリーを増やすという点においては一番役に立ったと思います。ライティングでは、たくさんの種類の文章を書くことで、提出レポートの形式のみならず、物語の書き方も教わりました。リーディングでは、本を読みながら内容を理解するというもので、日本の国語の授業に近いような感覚でした。ただ、課題として時事ニュースをまとめる、というものもあり、積極的に英語に触れる機会を作ってくれたりもしました。文法については生徒からの文法の質問に答えるコーナーがありました。その中ではいきなり答えを言わず、生徒同士でディスカッションして、推測するというのもしたので、とても楽しめました。先生方はとてもフレンドリーで、とてもいい環境だったと思います。

次に普段の生活についてです。私は一人部屋の寮に入りましたが、基本的には休憩したり

寝たりすることに使う程度でした。寮の一階のロビーでは、大抵誰かがいて、話したり、そこにあるビリヤード台や卓球台で遊びながらコミュニケーションをとることもできました。他にも、現地の日本語クラブのメンバーの部屋に集まってパーティーをしたり、談話したりもしました。クラブの活動自体は週に一回でしたが、部室に行けば誰かしら日本語学習者がいたので、そこでもたくさんコミュニケーションを取ることができました。日本語の授業の課題の手伝いだけでなく、日常的に使える日本語やことわざを教えたりと、お互い楽しみながら勉強することができました。もちろん、その中で英語のスキルも、日本語を教えることを通して向上したと思います。

食生活については、基本的には食堂で済ませることが多かったです。やはり寒い土地なので、温かい食事というものはとても美味しく感じました。ただ量は多く、流石アメリカだな、と感じることもありました。ほかにも、寮内にスーパーのようなものや、サンドイッチショップもあったので、そこで買って部屋で食事をする、ということもありました。キッチンも寮の中にありましたが、使うことはほとんどありませんでした。



時間はあっという間に過ぎて、冬がやってきました。とはいえ、自分の知る冬らしさを感じたのは10月頃のことです。この時はまだアラスカの冬がさらに過酷だということは知りませんでした。雪が降り積もり、溶けずにさらに積もる、という、名古屋では感じることでできない冬を体感しました。そして何より、その日の短さに驚きました。ぐんぐんと短くなっていき、感覚が狂うことも多少ありました。冬至には3時間半程度しか日が見えないので、当然といえばそうなのですが、不思議な感覚でした。

秋学期は何ら問題なく終わり、楽しみにしていたことの一つ、冬休みがやってきました。冬休み中は寮が閉まるので、友人宅にて過ごすことにしました。とても優しく、楽しい冬休みになったのは彼のおかげだと思います。その期間には、ノースポールというところへ行き、

サンタクロースハウスというお店に行きました。店の外にはとてつもなく大きなクリスマスツリーがあり、驚きました。店内はクリスマス関連の商品が溢れていて、とても見応えがありました。また、そこでサンタクロースと写真を撮れる、というイベントもあり、一緒に行った日本人留学生と撮りました。

それからしばらくして、年末年始がやってきました。大晦日には打ち上げ花火があり、友達と見に行きました。かなり寒かったので30分も見ていただけでしたが、迫力は想像以上のものでした。その後は新年カウントダウンを一緒に過ごし、小さなパーティーもしました。



次にやってきたイベント、これは私個人で楽しんだものですが、同時に夢の一つであった、マイナス40度の体験をしてきました。忘れもしない1月8日、夕方6時ごろにその時は来ました。ついにスマホの天気予報がその気温を指し示し、歩いて20分ほどの場所にある気温表示板まで行きました。その前で写真を撮ることが一部の人々に人気なようで、驚くことにそこには水着で写真を撮る一家もいました。私は歩いて行ったのでそんなことは当然できず、普通に写真を撮ることにしました。しかし、なんと、寒さのあまりスマホが凍り、電源がつかなくなってしまいました。そこで困惑していると、先程の写真を撮っていた方が撮ってくれるというので、そうしてもらい、後で送ってもらうことにしました。極寒の中で、人の温もりを感じた、そんな時間でした。帰り道も歩いたのですが、それが過酷を極めました。寒さのあまり呼吸しづらくなるという、今まで体験したことのないことが起きました。もちろん問題なく帰宅できましたが、部屋に入って驚いたのが、なんと前髪が吐息で完全に凍っていました。メガネは当然生きの段階から凍っていて、その寒さを物語っていました。後にも先にも、こんな経験はないと思います。



やがて日は過ぎ、あるイベントがやってきました。それは、犬ぞりのレースです。そのスタート地点がフェアバンクスとのことで、友達と見に行くことにしました。かなりの人混みでしたが、直近で見ることができました。それを見て、犬ぞりに乗る体験もしたくなりました。すると、その数日後に大学内で犬ぞり体験ができるとのことを聞き、向かうことにしました。初の犬ぞりはとても楽しく、思いの外快適でした。こんな体験ができるのもアラスカ特有だろうな、と思い、存分に楽しみました。



その後は春休みがあったのですが、そこで問題は起きました。コロナウイルスによる影響で、全てオンライン授業に移行してしまいました。日本からの留学生も帰国を決めていまし

たが、私はギリギリまでアラスカの生活を楽しむことにしました。が、日本が入国規制をするかもしれないと知って程なく、帰国を余儀なくされました。突然迎えた終わりでしたが、仕方ないことだとは思って、残りのオンライン授業は日本で受けることにしました。

オンライン授業についても少し書いていこうと思います。時差については、先生方がこちらに合わせてくれたので、朝早すぎることは無かったです。ただ、コミュニケーションの取りづらさや、機材やネットワークトラブルでうまくいかないところもありました。なんとか終わらせることはできましたが、お互いにやりづらかったとは思っています。

これをもって、私の留学報告とさせていただきますと思います。アラスカという地で、恐らく他の州では体験できないこともたくさんできたと思っているので、それこそ決まった当初は驚きましたが、今はとても良かったと感じています。